

〔資料〕

ケンブリッジ大学所蔵満洲国発行モンゴル語雑誌『大青旗』(Yeke köke tuy)

フフバートル

二〇一八年五月九日、ケンブリッジ大学で研究をしていた早稲田大学政治経済学術院土屋礼子教授から筆者宛てに次の内容のメールが届いた。

さて、こちらの図書館の所蔵資料を探索している内に一九三〇―四〇年代に日本側の組織が宣伝のために発行したと見られるモンゴル語の雑誌やパンフレットが見つかりました。すでに知られているものなのか、どのような価値があるものなのか、モンゴル語が読めないもので、判断しかねています。誌面の一部は写真に撮りましたので、いくつかをサンプルとしてファイルにアップしました。もしご興味があるようでしたら、下記のリンクから、七十二時間以内にダウンロードして下さい。

その内の、一つの雑誌は、『大青旗』という題名だと思いますが、それは全部で九冊あります。「新京」で印刷されたもので、「満洲図書株式会社」の販売になっていきます。文献検索では、『青旗』（フフトグ）という新聞の研究は進んでいるようですが、この雑誌はそれと関連しているのか、すでによく知られているものなのでしょうか。その中には、モンゴル語による日本語学習コーナーのような記事もありました。ご教示いただければ、ありがたく存じます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

五月九日 土屋礼子

このメールに書かれた情報から、本稿の内容はほぼ伝わったと思われるが、『大青旗』は、満洲国で発行されていた隔月発行のモンゴル語雑誌である。第一巻第一号（通号第一号）は康徳十（一九四三）年一月十五日に発行され、新京（現、長春市）でモンゴル語の新聞 Köke tuy（『青旗』）を発

行していた青旗社 (Köke tuy qoriya) が編集していた。本誌は戦時中に日本軍の支配下にあった機関が発行していた定期刊行物であったため、内容は日本軍の宣伝がほとんどであったが、モンゴル人作家たちの文学作品をはじめ、当時のモンゴル人が書き残した貴重な資料を多く収録しているため、一九四〇年代の満洲国におけるモンゴル人の文筆活動を調査するうえで、また、モンゴル語定期刊行物の研究にとってたいへん重要な資料といえる。さらに、本誌の表表紙、裏表紙を飾る絵はモンゴル人によって描かれたものであるため、これまで研究があまり進められていない内モンゴルの近代美術史研究にとっても貴重な資料になるであろう。

『青旗』紙については、筆者が大阪外国語大学に留学していた関係で、同大学附属図書館石濱文庫所蔵、未整理の資料のなかに奉天（瀋陽）や新京（長春）で刊行された数種類の貴重なモンゴル語新聞があったことに注目し、それを調査して、一九九五年から研究に利用している（フフバートル 一九九六「モンゴル語定期刊行物名称考」『日本モンゴル学会紀要』No.二七、四五―五九頁）。本紙の発行と青旗社については広川佐保（一九九七）「一九四〇年代の日本の対モンゴル政策と『フフトグ』紙」『日本モンゴル学会紀要』No.二八、二九―四一頁）があり、『大青旗』については二本博史（一九九八）「満洲国時代のモンゴル人文学者エルデムトゥグスの新発見の作品」『日本モンゴル学会紀要』No.二九、一一―二頁）がある。『大青旗』誌の所蔵状況については内モンゴル自治区図書館に第一号、第二号があり（武莫勒『内蒙古旧報刊考録一九〇五年―一九四九年九月』内蒙古出版集團 遠方出版社、二〇一〇年、三二―三頁）、東京外国語大学モンゴル研究室に第一号（一九四三年一月）、第二号（一九四三年三月）、第三号（一九四三年五月）、第四

号（一九四三年七月）、第五号（一九四三年九月）、第七号（一九四四年一月）、第一〇号（一九四四年七月）の計七冊が所蔵されていると報告されている（二木 一九九八、三頁）が、筆者が内モンゴル自治区図書館で二〇〇六年八月六日に行った再調査で確認できたのは第二号のみであった。さらに、滋賀県立大学で新設された「精松文庫」に元、大阪外国語大学モンゴル語教授精松源一の蔵書として第九号、第一〇号、第一二号がある。また、同文庫の設立に貢献した内田孝氏（滋賀県立大学図書館情報センターが所蔵するモンゴル関連資料の紹介「精松文庫と陳文庫を中心に」、二〇一七年十一月八日、日本モンゴル学会口頭発表）によれば、首都大学東京には本誌第一号から第七号、第一〇号から第一三号があり、欠号は第八号、第一四号（第三卷二号、一九四五年三月刊）である。

ここでは上記土屋礼子教授がケンブリッジ大学 The Lattimore Collection, the Faculty of Asian and Middle Eastern Studies に発見した本誌第一号―第八号と第一三号の表紙と目次の画像及び筆者による目次の日本語訳を掲載する。なお本誌第九号、第一〇号、第一二号については「精松文庫」展示資料の撮影を許されたので表紙写真のみ発刊順に紹介する。加えて末尾に、土屋氏が The Lattimore Collection で発見した青旗社編『大東亜戦争』(Yake Jegin azi-a-yin bayiduyan)（一九四二年四月十一日発行）の表紙と奥付も紹介する。

以上、本稿への資料掲載をご快諾くださったケンブリッジ大学、写真をご提供くださった土屋礼子氏と内田孝氏に深謝申し上げる、

なお、『大青旗』については、筆者が二〇一八年十月二十日に早稲田大学の「二〇世紀メディア研究所第一二二回研究会」で口頭発表をしたほか、二〇一九年十一月三日到北京の中央民族大学で開催される「第三回モンゴル語文献研究国際大会」で「新発見の『大青旗』誌番号とモンゴル人作家たちの作品」の題で研究発表を行う予定である。

All the photos except for one shown above on page 440 are provided by Professor Reiko Tsuchiya (Faculty of Political Science and Economics, Waseda University). They were taken at the Lattimore Collection housed at the Faculty of Asian and Middle Eastern Studies Library, University of Cambridge. The collection belongs to the Mongolian and Inner Asia Studies Unit at the University of Cambridge.



『大青旗』第一号（第一卷第一号）康徳十年一月十五日発行（隔月一回十五日発行）表表紙（右）・裏表紙（左）

原稿募集……………	(一五〇)
(子供の話) 心は共に……………	(六一)
笑い話……………	(一五六)
漫画……………	(八七、一九三)
ソロモン海での戦争とアメリカが報道したニュース……………	(九九)
鶏の卵を分別する方法……………	(一〇四)
初めて出産する女性に聞かせたい……………	(一〇七)
悪い習慣は慎むべき……………	(三四)
書籍を多く作成するメリット……………	(六七)
興味深い先生……………	(三九)
健康を守る基本知識……………	(四九)
人間と家畜の衛生……………	(七八)
冬は衰えても夏は栄える……………	(六〇)
大青旗の四季……………	(二七)
支援される学生たち……………	(一〇)
(戦争文学) 土と兵士…………… 訳 マーニジャブ 絵 ナイラムドール	(六八)
(国際情勢) アイジニ二一という名のスパイ…………… 編集 大青旗	(一〇八)
(東部満洲の物語) 険しい森…………… ばくふ 絵 ナイラムドール	(一八〇)
(物語) チンギス・ハーン…………… 訳 マーニジャブ	(三八)
編集後記……………	(一九四)

目次デザイン ナイラムドール



『大青旗』第二号(第一卷第二号) 康徳十年三月十五日発行
表表紙(右)・裏表紙(左)

戦友	(一三三)	戦友	(一三三)
子供の話	(一三五)	子供の話	(一三五)
日蒙会話解説	(一八〇)	日蒙会話解説	(一八〇)
漫画	(二二二)	漫画	(二二二)
笑い話	(四九)	笑い話	(四九)
室内衛生	(四八)	室内衛生	(四八)
チチハルという名称の由来	(九〇)	チチハルという名称の由来	(九〇)
人口は国の源	(四六)	人口は国の源	(四六)
ダライラマの生まれ変わり	(八八)	ダライラマの生まれ変わり	(八八)
モンゴルのお化け話	(八二)	モンゴルのお化け話	(八二)
農家を支援すべき	(五七)	農家を支援すべき	(五七)
各種船についての説明	(八)	各種船についての説明	(八)
詩 二月八日	(一八)	詩 二月八日	(一八)
現在のモンゴルの状況	(一一)	現在のモンゴルの状況	(一一)
農産物の恵みと用途	(六〇)	農産物の恵みと用途	(六〇)
宇宙の成り立ち	(五四)	宇宙の成り立ち	(五四)
乳児についての学問	(四二)	乳児についての学問	(四二)
アジアの歴史(中)	(二六)	アジアの歴史(中)	(二六)
困難に陥っているソビエトの実態	(四)	困難に陥っているソビエトの実態	(四)
アメリカとイギリスの実情	(三四)	アメリカとイギリスの実情	(三四)
シンガポール市での戦記	(九二)	シンガポール市での戦記	(九二)
物資が乏しくなれば人に福が増える	(一五)	物資が乏しくなれば人に福が増える	(一五)
真実と幸運	(二〇)	真実と幸運	(二〇)
建国についての回想	(三)	建国についての回想	(三)
写真報道(八枚) 巻頭辞	(一)	写真報道(八枚) 巻頭辞	(一)
絵 ナイラムドール		絵 ナイラムドール	
絵 ふくさわしろうぞう		絵 ふくさわしろうぞう	

表紙「三月の空」	表紙「三月の空」
トップページの絵「モンゴルの兵士と民衆が交流を楽しんだ絵」	トップページの絵「モンゴルの兵士と民衆が交流を楽しんだ絵」
写真報道(八枚) 巻頭辞	(一)	写真報道(八枚) 巻頭辞	(一)
建国についての回想	(三)	建国についての回想	(三)
真実と幸運	(二〇)	真実と幸運	(二〇)
物資が乏しくなれば人に福が増える	(一五)	物資が乏しくなれば人に福が増える	(一五)
シンガポール市での戦記	(九二)	シンガポール市での戦記	(九二)
アメリカとイギリスの実情	(三四)	アメリカとイギリスの実情	(三四)
困難に陥っているソビエトの実態	(四)	困難に陥っているソビエトの実態	(四)
アジアの歴史(中)	(二六)	アジアの歴史(中)	(二六)
現在のモンゴルの状況	(一一)	現在のモンゴルの状況	(一一)
農産物の恵みと用途	(六〇)	農産物の恵みと用途	(六〇)
宇宙の成り立ち	(五四)	宇宙の成り立ち	(五四)
乳児についての学問	(四二)	乳児についての学問	(四二)
詩 二月八日	(一八)	詩 二月八日	(一八)
各種船についての説明	(八)	各種船についての説明	(八)
農家を支援すべき	(五七)	農家を支援すべき	(五七)
モンゴルのお化け話	(八二)	モンゴルのお化け話	(八二)
ダライラマの生まれ変わり	(八八)	ダライラマの生まれ変わり	(八八)
人口は国の源	(四六)	人口は国の源	(四六)
チチハルという名称の由来	(九〇)	チチハルという名称の由来	(九〇)
室内衛生	(四八)	室内衛生	(四八)
笑い話	(四九)	笑い話	(四九)
漫画	(二二二)	漫画	(二二二)
モンゴル語名詞の省略法	(一八〇)	モンゴル語名詞の省略法	(一八〇)
日蒙会話解説	(一八五)	日蒙会話解説	(一八五)
子供の話	(一三三)	子供の話	(一三三)
戦友	(一三三)	戦友	(一三三)

小さな駅の子スズメの巢……………	江竜龍太郎	「宇野浩」作	(六八)
春を告げる鳥……………	江竜龍太郎	「宇野浩」作	(七六)
南洋の若者たち……………	エルデムトウグス		(一〇八)
(小説) 去った……………	エルデムトウグス		(五〇)
(実話) 国軍の威勢……………	エルデムトウグス		(一一三)
森林の中を歩く軍人たち……………	エルデムトウグス		(一〇二)
(ドイツの小説) 美少女……………	エルデムトウグス		(一六〇)
編集後記……………	目次デザイン	ナイラムドー	(一九二)



『大青旗』三号（第一卷第三号）康徳十年五月十五日発行
表表紙（右）・裏表紙（左）

小説の発展 (101)
 小説の発展 (102)
 小説の発展 (103)
 小説の発展 (104)
 小説の発展 (105)
 小説の発展 (106)
 小説の発展 (107)
 小説の発展 (108)
 小説の発展 (109)
 小説の発展 (110)
 小説の発展 (111)
 小説の発展 (112)
 小説の発展 (113)
 小説の発展 (114)
 小説の発展 (115)
 小説の発展 (116)
 小説の発展 (117)
 小説の発展 (118)
 小説の発展 (119)
 小説の発展 (120)

『大青旗』三号（第一卷第三号）目次（邦訳）
 表紙「継続的攻撃」..... 絵 ナイラムト
 巻頭辞..... (1)
 決戦の戦略..... (2)
 旗長らに期待すること..... ボヤンマンドフ (7)
 決戦の戦略を實行せよ..... (10)
 南洋での戦争について..... (11)
 アメリカ軍とイギリス軍を殺し、英雄たちに復讐せよ..... (12)
 日本海での戦争について..... (14)
 ソビエトは他の民族を抑圧している..... (16)
 落下傘..... (17)
 乳幼児の育て方..... マーニジャブ (18)
 世界の陸と水..... (19)
 読者からの投稿..... (20)
 五つの大陸の名前の由来..... ブルグド (21)
 モンゴルという名の意味..... イデルアルスラーン (22)
 ジャラン屯記..... ニメド (23)
 小説鼻..... (24)
 小説鼻..... 訳 江竜龍太郎「茶川龍之介作」 (25)
 アジア簡史（下）..... (26)
 軍の強さは訓練にあり..... (27)
 線香で時間を計ること..... (28)
 質問コーナー..... (29)
 紙を造る知識..... (30)
 豆知識..... (31)
 詩 馬養の子..... (32)
 新聞は戦争の武器..... (33)
 日蒙会話解説..... (34)
 アヘン戦争..... 大青旗編集室 絵 イトゲルト (35)
 美少女..... モンゴル語訳 デチン 絵 ナイラムト (36)

『大青旗』第四号（第一卷第四号）目次（邦訳）

表紙「少女」	絵 ナイラムト	(一)
巻頭辞		(一)
必勝のために資産を増やそう		(三)
必勝のための有効な戦略		(四)
戦いの時間節約		(七)
日本海軍の賛歌		(一八)
潜水艦隊の戦闘についての議会		(二〇)
新中国の治政状況		(三六)
詩 山登り		(一四)
流れ星		(一三二)
笑い話 喜びの顔		(四二)
興安高等学校の女子生徒の本社取材		(一二三)
再興するフィリピンで戦争で戦う女子		(四三)
鉄不足のイギリス		(四七)
外モンゴル国の哀れな情勢		(二八)
移りかわる季節		(一六)
帝国の施しに感謝せよ	絵 モリ	(二五)
熱河館見学感想	絵 モリ	(四八)
南国旅行記	絵 モリ	(五〇)
人間と文化		(五七)
共栄圏と船	大青旗編集室	(三〇)
東京へ向かう途中	チョコチラン	(六五)
我々若者の知ることとすること	ラシジョンナイ	(六六)
賢者の話		(六七)
蹄の音	バルバル・ジュンユー	(六八)
南方の事情 炊飯で時間を計る		(七三)
前世の行為が今世報われる		(七四)
悲しみから咲いた花	エルデムト作・絵 イトゲルト	(七八)
物と金		(八六)

亀と象		(五八)
戦争に必要な馬		(九〇)
逃げた月の物語		(六〇)
アルバト長に就任できなかったこと		(八八)
サルと蜜の戦い		(六一)
安産と育児	マーニジャブ	(九四)
学生向けのコラム		
少女達の豆知識		(一〇九)
学生時代と嫁になる時	オドンゲレル	(一一〇)
歩く力の重要性	大青旗編集室	(一二四)
五大州の山と高地の名称		(一三六)
夜の練習		(一二〇)
太陽の光と石炭の火		(一三四)
アイラグ「馬乳」で子供の下痢を治す方法		(四七)
家庭での治療法		(九一)
肺炎の治療法		(一〇六)
オルチョン族について		(一一二)
宮本武蔵の物語	吉川英治作	(一四〇)
宮本武蔵についての解説	マーニジャブ訳	(一五〇)
日蒙会話		(一五二)
編集後記		(一五八)

『大青旗』第五号 (第一卷第五号) 康徳十年九月十五日発行

表表紙 (右)・裏表紙 (左)



『大青旗』第五号 (第一卷第五号) 目次

表紙	1
裏紙	2
目次	3
大青旗の由来	4
大青旗の歴史	5
大青旗の現状	6
大青旗の将来	7
大青旗の特色	8
大青旗の長所	9
大青旗の短所	10
大青旗の功徳	11
大青旗の利益	12
大青旗の幸福	13
大青旗の健康	14
大青旗の富貴	15
大青旗の榮華	16
大青旗の尊貴	17
大青旗の威風	18
大青旗の凛々	19
大青旗の堂堂	20
大青旗の正氣	21
大青旗の節操	22
大青旗の廉潔	23
大青旗の忠貞	24
大青旗の孝悌	25
大青旗の仁愛	26
大青旗の信義	27
大青旗の禮儀	28
大青旗の風俗	29
大青旗の習慣	30
大青旗の文化	31
大青旗の藝術	32
大青旗の科學	33
大青旗の技術	34
大青旗の工業	35
大青旗の商業	36
大青旗の交通	37
大青旗の通信	38
大青旗の教育	39
大青旗の衛生	40
大青旗の治安	41
大青旗の国防	42
大青旗の外交	43
大青旗の内政	44
大青旗の財政	45
大青旗の金融	46
大青旗の貿易	47
大青旗の観光	48
大青旗の遊藝	49
大青旗のスポーツ	50
大青旗のファッション	51
大青旗の美容	52
大青旗の健康食品	53
大青旗の美容品	54
大青旗の健康食品	55
大青旗の美容品	56
大青旗の健康食品	57
大青旗の美容品	58
大青旗の健康食品	59
大青旗の美容品	60
大青旗の健康食品	61
大青旗の美容品	62
大青旗の健康食品	63
大青旗の美容品	64
大青旗の健康食品	65
大青旗の美容品	66
大青旗の健康食品	67
大青旗の美容品	68
大青旗の健康食品	69
大青旗の美容品	70
大青旗の健康食品	71
大青旗の美容品	72
大青旗の健康食品	73
大青旗の美容品	74
大青旗の健康食品	75
大青旗の美容品	76
大青旗の健康食品	77
大青旗の美容品	78
大青旗の健康食品	79
大青旗の美容品	80
大青旗の健康食品	81
大青旗の美容品	82
大青旗の健康食品	83
大青旗の美容品	84
大青旗の健康食品	85
大青旗の美容品	86
大青旗の健康食品	87
大青旗の美容品	88
大青旗の健康食品	89
大青旗の美容品	90
大青旗の健康食品	91
大青旗の美容品	92
大青旗の健康食品	93
大青旗の美容品	94
大青旗の健康食品	95
大青旗の美容品	96
大青旗の健康食品	97
大青旗の美容品	98
大青旗の健康食品	99
大青旗の美容品	100

1 大青旗の巻頭語 1
 2 大青旗の巻頭語 2
 3 大青旗の巻頭語 3
 4 大青旗の巻頭語 4
 5 大青旗の巻頭語 5
 6 大青旗の巻頭語 6
 7 大青旗の巻頭語 7
 8 大青旗の巻頭語 8
 9 大青旗の巻頭語 9
 10 大青旗の巻頭語 10
 11 大青旗の巻頭語 11
 12 大青旗の巻頭語 12
 13 大青旗の巻頭語 13
 14 大青旗の巻頭語 14
 15 大青旗の巻頭語 15
 16 大青旗の巻頭語 16
 17 大青旗の巻頭語 17
 18 大青旗の巻頭語 18
 19 大青旗の巻頭語 19
 20 大青旗の巻頭語 20
 21 大青旗の巻頭語 21
 22 大青旗の巻頭語 22
 23 大青旗の巻頭語 23
 24 大青旗の巻頭語 24
 25 大青旗の巻頭語 25
 26 大青旗の巻頭語 26
 27 大青旗の巻頭語 27
 28 大青旗の巻頭語 28
 29 大青旗の巻頭語 29
 30 大青旗の巻頭語 30
 31 大青旗の巻頭語 31
 32 大青旗の巻頭語 32
 33 大青旗の巻頭語 33
 34 大青旗の巻頭語 34
 35 大青旗の巻頭語 35
 36 大青旗の巻頭語 36
 37 大青旗の巻頭語 37
 38 大青旗の巻頭語 38
 39 大青旗の巻頭語 39
 40 大青旗の巻頭語 40
 41 大青旗の巻頭語 41
 42 大青旗の巻頭語 42
 43 大青旗の巻頭語 43
 44 大青旗の巻頭語 44
 45 大青旗の巻頭語 45
 46 大青旗の巻頭語 46
 47 大青旗の巻頭語 47
 48 大青旗の巻頭語 48
 49 大青旗の巻頭語 49
 50 大青旗の巻頭語 50
 51 大青旗の巻頭語 51
 52 大青旗の巻頭語 52
 53 大青旗の巻頭語 53
 54 大青旗の巻頭語 54
 55 大青旗の巻頭語 55
 56 大青旗の巻頭語 56
 57 大青旗の巻頭語 57
 58 大青旗の巻頭語 58
 59 大青旗の巻頭語 59
 60 大青旗の巻頭語 60
 61 大青旗の巻頭語 61
 62 大青旗の巻頭語 62
 63 大青旗の巻頭語 63
 64 大青旗の巻頭語 64
 65 大青旗の巻頭語 65
 66 大青旗の巻頭語 66
 67 大青旗の巻頭語 67
 68 大青旗の巻頭語 68
 69 大青旗の巻頭語 69
 70 大青旗の巻頭語 70
 71 大青旗の巻頭語 71
 72 大青旗の巻頭語 72
 73 大青旗の巻頭語 73
 74 大青旗の巻頭語 74
 75 大青旗の巻頭語 75
 76 大青旗の巻頭語 76
 77 大青旗の巻頭語 77
 78 大青旗の巻頭語 78
 79 大青旗の巻頭語 79
 80 大青旗の巻頭語 80
 81 大青旗の巻頭語 81
 82 大青旗の巻頭語 82
 83 大青旗の巻頭語 83
 84 大青旗の巻頭語 84
 85 大青旗の巻頭語 85
 86 大青旗の巻頭語 86
 87 大青旗の巻頭語 87
 88 大青旗の巻頭語 88
 89 大青旗の巻頭語 89
 90 大青旗の巻頭語 90
 91 大青旗の巻頭語 91
 92 大青旗の巻頭語 92
 93 大青旗の巻頭語 93
 94 大青旗の巻頭語 94
 95 大青旗の巻頭語 95
 96 大青旗の巻頭語 96
 97 大青旗の巻頭語 97
 98 大青旗の巻頭語 98
 99 大青旗の巻頭語 99
 100 大青旗の巻頭語 100

表紙「モンゴルの子供」..... 絵 イテゲルト
 巻頭辞..... (一)
 なぜ公務に励むのか..... (七)
 安産と育児法..... (八四)
 家畜を繁殖させよう..... (一一)
 家畜を改良する目的..... (二四)
 決戦と各種製品増産..... (一一)
 モンゴル人と教育..... チョロン (一一三)
 努力は素晴らしいこと..... (二六)
 南方諸国の訪問記..... (五六)
 いくつかの知識..... (九六)
 二つのこと..... (一一)
 重要な評論..... (一四八)
 天の音と地の音..... (二〇)
 ユーモアのある詩..... (四九)
 笑い話..... (五〇)
 少年たちのテストコーナー..... (五一)
 幼児の遊び..... (六五)
 我々も国を守ろう..... 絵 ナイラムト (四四)
 ジャライ湖を観光した記録..... (三〇)
 草原で遊ぶこと..... (五二)
 冬至についての説明..... (七〇)
 水の科学的研究..... (七五)
 卵についての調査..... (七八)
 顔が似ている..... (二九)
 詩地図..... (三三)
 アジアのために..... (四三)
 満洲国全協議会..... ブルグド (三八)
 興安学校の十周年記念..... マーニジャブ (一〇四)

国家の繁栄は国民の苦勞からなる……………(九八)
 食糧の基地としての満洲国……………(一〇三)
 宮本武蔵……………吉川英治作 マーニジャブ訳 (一一三)
 漠南(ゴビの南)の青年の涙……………エルデムトウグス (一二二)
 日蒙会話解説……………(一五八)
 編集後記……………(一六四)



『大青旗』第七号(第二卷第一号) 康德十一年一月十五日発行
 表表紙(右)・裏表紙(左)

モンゴルの結婚式での祝辞……………	(二二九)
モンゴルの伝統的な童話の変化……………	(一三三)
二人の英雄の物語……………	(六六)
宮本武蔵……………	(二四一)
日蒙会談解説……………	(一五七)
編集後記……………	(一六四)



『大青旗』第八号(第二卷第二号) 康徳十一年三月十五日発行
表表紙(右)・裏表紙(左)

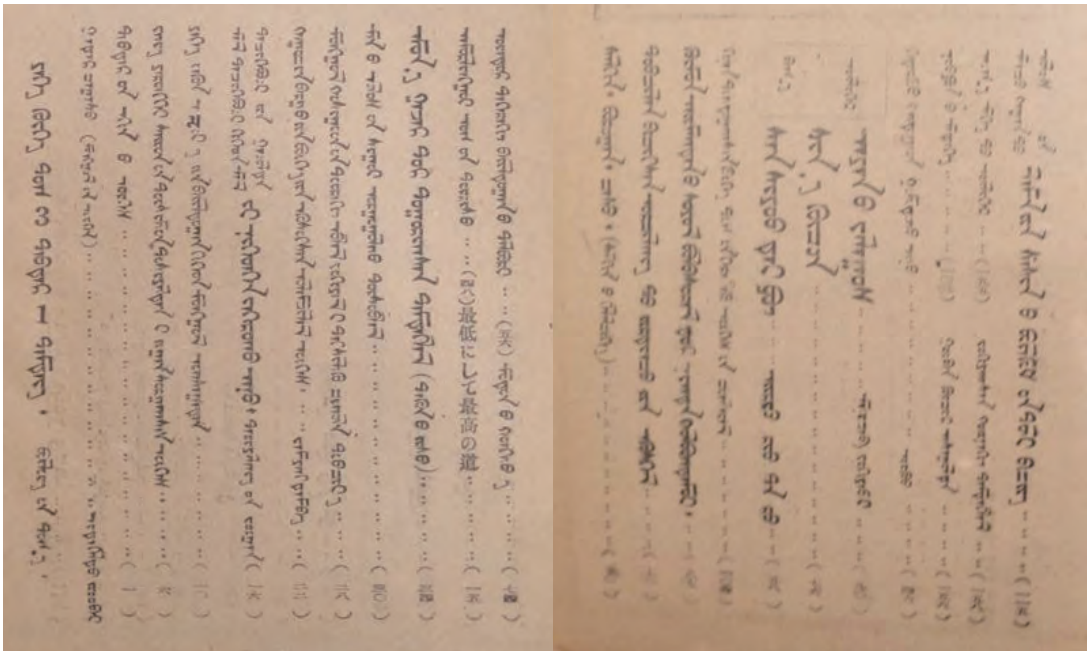


『大青旗』第九号、第二〇号、第二二号 (下段三冊)

(撮影 フフバートル)

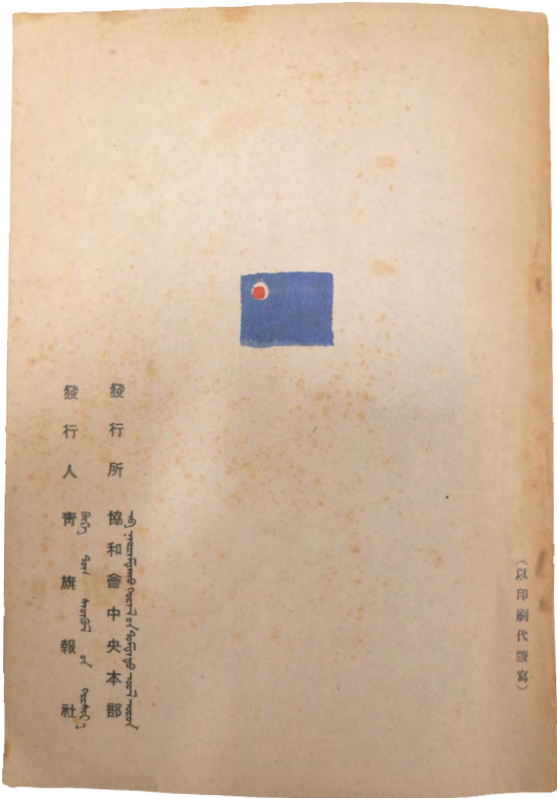


『大青旗』第二三号 (第三卷第一号) 康德十二年一月十五日
表表紙 (右)・裏表紙 (左)



大青旗第二号(第三卷第一号) 目次(邦訳)	
表紙(モンゴルの少女).....	絵 イトゲルト
巻頭辞.....	(一)
張総理が役人たちに指示したことは.....	(六)
大東亜戦争とモンゴル民族.....	(一〇)
家畜と畜産品の統一管理.....	農業部 (一六)
陳バガ旗のシャマニズムの由来に関する伝説.....	ジャムヤンダムバー (二二)
モンゴル旗下行政の調整要綱.....	(二八)
我が国の植林計画.....	(三〇)
南国旅行記(その九).....	(三四)
安定的な原型.....	(四八)
最低にして最高の道「筆者注 日本語」.....	(一五)
空の戦場.....	(五六)
木の鈴.....	(七四)
風・雨・雪(風の会話).....	(五〇)
宇宙起源の概説.....	(七〇)
人間の教養に密接に関わること.....	(八七)
検定された青旗の用語集.....	(一〇四)
小説	
山椒大夫.....	江竜龍太郎「森鷗外作」 (五八)
新しい勢力.....	(七六)
旅をする若者たち.....	マーニジャブ (九〇)
後向いて悲しんだ.....	エリフウ (四六)
日本のニュース.....	(一〇三)
三つの難問.....	(一五六)
賢い人の物語.....	(一五五)
編集後記.....	(一五八)
満洲帝国喇嘛教団体辞典.....	(一一五)

『大東亜戦争』 Yeké Jègün azi-a-yin bayiduyan 康徳九（一九四二）年
四月十一日 青旗報社 kòke tuy qorsiy-a 表表紙（右）・奥付（左）



本資料紹介ではケンブリッジ大学 The Latimore Collection, the Faculty of Asian and Middle Eastern Studies 所蔵の、一九四三年に満洲国で創刊されたモンゴル語雑誌 Yeké kòke tuy (『大青旗』) の第一号から第八号、第一三号の表紙と目次の画像及び筆者による目次の日本語訳を掲載し、同大学所蔵の青旗社編『大東亜戦争』(Yeké Jègün azi-a-yin bayiduyan) の表表紙と奥付を掲載した。日本軍の敗戦、または終戦が近づいていた時期の刊行でもあり、戦時情勢について日本軍のプロパガンダや戦争への支持、支援、理解を求めた内容が多く、それは日本語からの翻訳だけでなく、モンゴル人が書いた文章にも多く見られた。興味深い例として、第五号の「ホンホルゾル娘従軍の劇」と第八号の「ホンホル娘従軍の劇」が挙げられる。この二つの文章は作者名が異なる「同名」の作品であるが、当時の内モンゴルの文学ではまだ少なかった「劇」形式で書かれている。これは、読者にとっては他の表現手段に比べて新鮮でもあり宣伝効果も高かったであろう。二作はともにチンギス・ハーン時代のモンゴルの歴史を下敷きに、女性の従軍を奨励しており、モンゴルの歴史物語に日本軍にとっての現実的意義を重ねていた点で共通性を持ち、今後の研究テーマとしてはたいへんユニークな資料になる。これは一例にすぎないが、本稿に掲載された資料はモンゴル研究における多くの分野にとって利用価値が高い。今後の課題としては、まずこれまでの『大青旗』誌研究で利用されていない各号の内容を吟味、検討しモンゴル人の文学作品をはじめ、青旗社の編集者として数多くの文章を執筆し、膨大な量の日本語の書籍、文章をモンゴル語に翻訳したマーニジャブの文筆活動について調査をする。また、一九四一年から満洲国駐日本大使館学務処で理事官を務めていたハーフォングァーが執筆した gari-dur sa yuju surqu mongyul surayüid-un egürge (海外に留学するモンゴル人学生たちの役目) (漢語からの翻訳・筆者) など、内モンゴルの現代史にかかわる資料などを分析する。

最後に資料をご提供下さった各位に重ねて深く御礼申し上げます。

本論文は独立行政法人日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C) 研究課題番号 18 K00586「現代モンゴル語書きことばの形成」)による研究成果の一部である。

(フフバートル 現代教養学科)